

◎指示があるまで開かないこと。

(令和5年2月4日 13時35分～15時10分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は50問で解答時間は正味1時間35分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

各問題にはaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、		
101	a	b	c	d	e	101	101
	a	b	c	d	e	a	a
	a	b	c	d	●	b	b
	a	b	c	d	●	c	c
	a	b	c	d	●	d	d
	a	b	c	d	●	e	●

- 1 インシデントレポートで正しいのはどれか。
 - a 保健所に報告する義務がある。
 - b 医療安全管理委員会が作成する。
 - c 薬剤に関する報告件数が最も多い。
 - d 報告件数が少ないほど医療安全の質が高い。
 - e 患者に実害がない場合は作成する必要はない。

- 2 吐血よりも咯血を示唆する所見はどれか。
 - a 悪心を伴う。
 - b 咳嗽を伴う。
 - c 食物残渣を伴う。
 - d タール便を伴う。
 - e 暗赤色の色調である。

- 3 医師の職業倫理に**反する**のはどれか。
 - a 患者から医療施設への寄付の申し出があり受け入れた。
 - b 自らの専門性を超えると判断した患者を他の医療機関に紹介した。
 - c サプリメントを使用する患者に健康被害に留意するよう指導した。
 - d 症例対照研究のために患者に許可なく本籍地を含む個人情報を収集した。
 - e 血液製剤の使用を拒む成人患者に意思の尊重と救命の両立とを図る努力をした。

- 4 胎児期に血液酸素飽和度が最も低いのはどれか。
- a 左心室
 - b 静脈管
 - c 臍帯静脈
 - d 臍帯動脈
 - e 中大脳動脈
- 5 診療録における SOAP の A に該当するのはどれか。
- a 現病歴
 - b 鑑別診断
 - c 検査結果
 - d 身体所見
 - e 治療計画
- 6 感染性心内膜炎を示唆する皮膚所見はどれか。
- a Roth 斑
 - b 輪状紅斑
 - c Koplik 斑
 - d Osler 結節
 - e 遊走性紅斑

7 高齢者総合機能評価(CGA)において、復唱を用いて評価するのはどれか。

- a 意欲
- b 運動機能
- c 認知機能
- d 基本的日常生活動作
- e 手段的日常生活動作

8 Which of the following diseases needs airborne precautions?

- a herpes
- b influenza
- c mumps
- d rubella
- e varicella

9 妊娠高血圧症候群の重症化の指標となるのはどれか。

- a 血小板の減少
- b 呼吸数の減少
- c 下腿浮腫の悪化
- d 子宮収縮の増強
- e 尿蛋白/クレアチニン比の低下

10 2016年および2019年に行われた国民生活基礎調査で、病気やけが等で自覚症状がある人数を人口1,000人比で求めた有訴者率を、性別と症状別にグラフに記したものを(別冊No. 1)を別に示す。

Aの症状はどれか。

- a 下痢
- b 動悸
- c 腹痛
- d 腰痛
- e 手足のしびれ

別冊

No. 1

11 患者の訴えのうち、抑うつ状態が最も考えられるのはどれか。

- a 「すぐにかっとなってしまいます」
- b 「何をするのも億劫で仕方ありません」
- c 「なんとなく落ち着かない気持ちになります」
- d 「昼間にうとうとすることが多くなりました」
- e 「外に出ると誰かに見られているような気がします」

12 処方箋について正しいのはどれか。

- a 有効期間は1日である。
- b 薬剤師に発行権限がある。
- c 一般名による薬剤名の記載は有効である。
- d 医療機関が特定の保険薬局を指定できる。
- e 処方医は自筆で署名をしなくてはならない。

13 病歴聴取で、家族内に同じ疾患の患者が存在することが、診断に最も有用な疾患はどれか。

- a 心房細動
- b 肥大型心筋症
- c 冠攣縮性狭心症
- d 大動脈弁狭窄症
- e 心サルコイドーシス

14 介護保険の強制加入の開始年齢はどれか。

- a 20 歳
- b 40 歳
- c 60 歳
- d 65 歳
- e 75 歳

15 痒痒をきたしにくいのはどれか。

- a 薬疹
- b 蕁麻疹
- c 結節性紅斑
- d 多形滲出性紅斑
- e アトピー性皮膚炎

- 16 緊張性気胸で認める所見はどれか。
- a ばち指
 - b 奇異呼吸
 - c 血圧低下
 - d 縦隔動揺
 - e 患側肋間腔狭小
- 17 医療面接における傾聴で正しいのはどれか。
- a 事実確認を行う。
 - b アドバイスをする。
 - c 時間を限って聞く。
 - d 相手の話を熱心に聞く。
 - e 決められた項目を聞く。
- 18 治療薬物モニタリング(TDM)の対象となる抗菌薬はどれか。
- a カルバペネム系
 - b ニューキノロン系
 - c リンコマイシン系
 - d アミノグリコシド系
 - e セファロスポリン系

19 肺低形成を合併する胎児疾患はどれか。

- a 水頭症
- b 二分脊椎
- c 臍帯ヘルニア
- d 横隔膜ヘルニア
- e 先天性食道閉鎖症

20 失神をきたしうる疾患と失神の誘因との組合せで誤っているのはどれか。

- a 起立性低血圧 ————— α 遮断薬投与
- b 頸動脈洞症候群 ————— 頸部の伸展
- c Brugada 症候群 ————— 発熱
- d 完全房室ブロック ————— 安静臥位
- e 閉塞性肥大型心筋症 ————— 激しい運動

21 我が国の医療保険制度について正しいのはどれか。

- a 国民皆保険制度である。
- b 予防接種は対象である。
- c 保険医は保険者が指定する。
- d 65 歳以上は後期高齢者医療制度に加入する。
- e 雇用主は被用者保険の保険料を全額負担する。

22 治療薬の効果に関するランダム化比較試験の試験参加について被験者の同意を取得したとみなされるのはどれか。

- a 研究に用いる薬物の服用
- b 研究を行う主治医の同意
- c 研究施設の倫理委員会の承認
- d 施設のホームページでの公示
- e 被験者への説明と同意文書の取得

23 糸球体濾過量(GFR)について正しいのはどれか。

- a GFR の軽度低下で血清クレアチニン値は上昇する。
- b イヌリンクリアランスは正確な GFR 評価に用いられる。
- c 健常者において加齢による GFR 低下は 80 歳まで起こらない。
- d 筋肉量が少ない場合は eGFR が実測 GFR より低くなることが多い。
- e 成人の eGFR は血清クレアチニン値、身長および年齢から計算される。

24 月経は何を排出するために起きているか。

- a 血液
- b 頸管粘液
- c 子宮内膜
- d 膣分泌物
- e 卵管分泌物

25 リスボン宣言の内容で誤っているのはどれか。

- a 患者には医療情報の提供を拒否する権利がある。
- b 患者には医学教育への参加を拒否する権利がある。
- c 自殺企図の患者の場合、患者の生命を救う努力をする。
- d 患者の情報は患者の死後も秘密が守られる必要がある。
- e 患者が未成年の場合、患者の意思よりも代理人の希望が優先される。

26 86歳の女性。10年前に脳梗塞を発症して寝たきりとなった。重度の認知症があり、自宅で家族が介護してきたが、四肢関節の拘縮が徐々に進行し、最近は体位変換も困難である。訪問診療に訪れたところ、和室の布団に右側臥位で寝ている。股関節は90度屈曲位で拘縮しており、うなり声をあげている。身長154 cm、体重42 kg。体温36.2℃。脈拍76/分、整。血圧122/68 mmHg。呼吸数18/分。

診察に際して正しいのはどれか。

- a 表情をみながら触診する。
- b 浮腫の有無は左半身で判断する。
- c 股関節を完全伸展させてから診察する。
- d 声を出さないよう指示してから聴診する。
- e 打診は疼痛が疑われる部位に繰り返し行う。

27 35歳の男性。血尿を主訴に来院した。昨日初めてフルマラソンを完走し、その3時間後から尿の色が赤黒くなり持続している。下肢の筋肉痛があるが、その他の症状はない。既往歴に特記すべきことはない。身長170 cm、体重68 kg。脈拍72/分、整。血圧132/60 mmHg。胸腹部に異常を認めない。両下肢全体に圧痛を認める。尿所見：蛋白(－)、ケトン体(－)、潜血3＋、沈渣に赤血球、白血球、円柱を認めない。血液検査の結果はまだ報告されていない。

最も考えられる疾患はどれか。

- a 膀胱炎
- b IgA腎症
- c 尿路結石
- d 横紋筋融解症
- e 多発性嚢胞腎

28 82歳の女性。発熱を主訴に家族に連れられて来院した。誤嚥性肺炎の診断で入院となった。Alzheimer型認知症があり、食事のむせこみで頻回の誤嚥性肺炎の既往がある。肺炎のため2週間前に入院し、肺炎は改善したがADLが低下したため現在は全介助の状態である。認知機能障害のため嚥下訓練も進まず胃瘻の造設を検討することになった。認知症症状が悪化する前には、「ボケるくらいなら死んだほうがまし」、「胃に管を入れてまで生きたいと思わない」と発言していたという。息子は胃瘻を希望しているが娘は反対している。現在、意識は傾眠状態で、呼びかけに反応しない。

この患者の胃瘻造設に関する意思決定について適切なのはどれか。

- a 患者を介護する家族が決定する。
- b 病状説明を行って患者が決定する。
- c 患者にとっての最善な治療方法を医療チームが決定する。
- d 患者の推定意思を尊重し家族と医療チームが話し合っ決定する。
- e 院内に設置された委員会が家族と医療チームの意見に基づいて決定する。

29 76歳の女性。高血圧と慢性心不全のため入院していた。退院後は自宅近くの診療所に通院し、かかりつけ医の指導により自宅で毎朝体温、脈拍、血圧および体重の測定を行い、下腿浮腫の有無を確認している。

体液の過剰状態を早期に判断するために最も信頼度が高い項目はどれか。

- a 体温
- b 脈拍
- c 血圧
- d 体重
- e 浮腫

30 40歳の女性。心窩部痛を主訴に来院した。医療面接で解釈モデルを把握するための質問はどれか。

- a 「どうされましたか」
- b 「どのような痛みですか」
- c 「最近ストレスはありましたか」
- d 「このような痛みは初めてですか」
- e 「痛みの原因をどのように考えていますか」

31 65歳の女性。発熱を主訴に来院した。2日前から悪寒を伴う39℃台の発熱と右顔面の痛みが出現したため受診した。鼻閉や鼻汁はない。生来健康で、アレルギー歴や外傷歴はない。意識は清明。体温38.4℃。脈拍92/分、整。血圧134/68 mmHg。呼吸数20/分。顔面に右を主体とする腫脹があり、左右差を認める。右額面から、右頬部にかけて硬結と圧痛を伴う浮腫性紅斑を認める。右眼に充血はなく、眼球運動は正常である。顔面の写真(別冊No. 2)を別に示す。

考えられる病原微生物はどれか。

- a 結核菌
- b 緑膿菌
- c カンジダ
- d A群β溶連菌
- e 水痘・帯状疱疹ウイルス

別 冊

No. 2

32 18歳の男子。鼻出血を主訴に来院した。自宅で特に誘引なく鼻出血が出現し、タオルで鼻を押さえて受診した。1週間前に行われた大学の健康診断で異常は指摘されなかった。意識は清明。身長176 cm、体重68 kg。体温36.4℃。脈拍80/分、整。血圧120/64 mmHg。呼吸数12/分。SpO₂99%(room air)。眼瞼結膜に貧血を認めない。胸部と腹部の診察で異常を認めない。

適切な初期対応はどれか。

- a 鼻翼をつまむ。
- b 仰臥位にする。
- c 鼻部を氷で冷やす。
- d 後頸部を軽くたたく。
- e のどに流れてきた血液は飲み込ませる。

33 49歳の男性。病期Ⅳの大腸癌で抗癌化学療法のため入院した。以下のように家族に関する情報を得た。

「既婚です」

「子供が3人おり、上から男、男、女です」

「長男は遠方で就職しており、私は妻と下の2人の子供と同居しています」

「父は胃癌で72歳のときに亡くなりました」

「母は脳卒中で60歳のときに亡くなりました」

「4人の兄弟姉妹で上から兄、姉、私、弟です」

家系図(別冊No. 3 ①～⑤)を別に示す。

家系図で適切なのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊 No. 3 ①～⑤

34 ある病棟で研修医 A が担当患者数名の採血のために、1つのトレイで全員分の採血管を運び採血を行った。しかし、指導医がそのうち2名の患者の検査結果がそれぞれの病状経過に沿わないことに気づき、研修医 A に再検査(2回目の採血)を指示した。結果として、研修医 A が1回目の採血の際に2名の患者の採血管を取り違えたことが明らかとなった。

研修医 A が次に行う対応として適切なのはどれか。

- a 所轄の警察署に届け出る。
- b 検査結果の削除依頼をする。
- c 2名の患者に3回目の採血を行う。
- d 院外の事故調査委員会に調査を依頼する。
- e 医療安全部門にインシデントレポートを提出する。

35 60歳の男性。右上肢筋力低下を主訴に来院した。徒手筋力テストで、前腕回外位で右肘屈曲させたところ、重力に抗して全可動域の運動が可能であったが、軽い抵抗が加わると不可能であった。

右肘屈曲(上腕二頭筋)の徒手筋力テストの評価はどれか。

- a 1
- b 2
- c 3
- d 4
- e 5

36 36歳の男性。全身けいれんのため救急車で搬入された。来院時にはけいれんは消失していた。15歳からてんかんの既往があり、抗けいれん薬を処方されていたが、2か月前から服薬を自己中断していた。意識レベルはJCSⅡ-10。心拍数98/分、整。血圧140/90 mmHg。呼吸数18/分。SpO₂98%(リザーバー付マスク10L/分 酸素投与下)。静脈路を確保して、頭部CTを撮影する準備をしていたところ、全身けいれんを起こした。

この患者に直ちに静注すべき薬剤はどれか。

- a モルヒネ
- b ジアゼパム
- c フロセミド
- d アドレナリン
- e グルコン酸カルシウム

37 18歳の女子。呼吸困難を主訴に救急外来を受診した。通学途中に満員のバスの中で急に息苦しく、呼吸が促迫になった。パニック障害で自宅近くの診療所に通院しているが、それ以外の基礎疾患はない。意識は清明。体温36.8℃。脈拍104/分、整。血圧112/72 mmHg。呼吸数48/分。SpO₂100%(room air)。頸静脈の怒張を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、圧痛を認めない。四肢にチアノーゼを認めない。患者は「息ができない。手の指先と口の周囲が痺れる」と言っている。

この患者に救急外来で行う対応として正しいのはどれか。

- a 抗精神病薬を内服させる。
- b そのまま学校に行かせる。
- c 低流量酸素を吸入させる。
- d 紙袋を口につけて呼吸させる。
- e ゆっくり呼吸するように指導する。

38 67歳の男性。腹部膨満感、右季肋部痛およびふらつきを主訴に来院した。半年以上前から右季肋部痛を自覚していたが、3か月前から痛みが増強するとともに腹部膨満感が出現、1か月前から黒色の軟便が見られるようになり、2週間前からふらつきが強まった。ここ3か月で体重が5kg減少している。意識は清明だが、問診の意味が把握しにくいようで、聴覚障害と軽度の知的障害が疑われる。身長154cm、体重53kg。体温35.9℃。脈拍84/分、整。血圧112/72mmHg。呼吸数13/分。眼瞼結膜は蒼白で眼球結膜に軽度黄染を認める。腹部は膨満しており、波動を認める。両下腿に強い浮腫を認める。一人暮らしで身寄りがなく、生活保護を受けている。民生委員が同伴で受診しており、問診の際も民生委員を介して聞き取りを行ったが、生活状況などについて十分な情報が聴取できない。

まず取るべき対応で正しいのはどれか。

- a 医師が患者に代わって診療方針を決定する。
- b 診療方針について患者本人に説明し意向を聞く。
- c 民生委員を成年後見人とみなして診療方針について相談する。
- d 患者本人の意思決定困難を理由にこれ以上の検査治療を行わない。
- e 医学的検査の結果に基づき、客観的に治療の適否や内容を決定する。

39 75歳の男性。複視と眼瞼下垂を主訴に来院した。昨夜、入眠中に突然出現した激しい頭痛のために覚醒し、頭痛は1時間持続した。今朝になって複視と右眼の開眼困難に気付いた。これまでに慢性的な頭痛の既往はない。意識は清明。身長172 cm、体重61 kg。体温36.4℃。脈拍72/分、整。血圧128/80 mmHg。呼吸数12/分。SpO₂96%(room air)。右瞳孔の散大と対光反射消失とを認める。眼(別冊No. 4A)と眼球運動の様子(別冊No. 4B)とを別に示す。他の身体診察に異常を認めない。

最も考えられる診断はどれか。

- a 片頭痛
- b Bell 麻痺
- c 脳動脈瘤
- d 重症筋無力症
- e Horner 症候群

別 冊

No. 4 A、B

40 70歳の男性。肺炎で入院加療を受けている。肺炎が治癒したため、自宅に退院予定であった。担当医が早朝に診察するために病室に入ったところ、点滴チューブの結合部が外れ、床面に逆流した血液が溜まっているのを発見した。患者の状態を確認したところ、既に患者の下顎に死後硬直を認め、死亡確認を行った。

この状況で次に行うべき適切な対応はどれか。

- a 清掃の指示
- b 異状死の届出
- c 保健所へ連絡
- d 病理解剖の依頼
- e 死亡診断書の記載

次の文を読み、41、42の問いに答えよ。

28歳の男性。腹痛を主訴に来院した。

現病歴 : 昨日から臍部を中心とした腹痛が出現し、その後、悪心、食欲不振を伴うようになった。今朝になって痛みが右下腹部に移動し、悪化したため受診した。

既往歴 : 5歳時に右鼠径ヘルニアで手術。

生活歴 : 妻、子ども(3歳)と同居。公務員。喫煙歴と飲酒歴はない。

家族歴 : 父が58歳時に脳梗塞を発症。

現症 : 意識は清明。身長176 cm、体重68 kg。体温37.0℃。脈拍88/分、整。血圧128/76 mmHg。呼吸数18/分。SpO₂97%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦で、右下腹部に圧痛を認めるが反跳痛は認めない。四肢に異常を認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球360万、Hb12.1 g/dL、Ht38%、白血球10,200(好中球85%、好酸球1%、好塩基球1%、単球2%、リンパ球11%)、血小板28万。血液生化学所見：AST16 U/L、ALT18 U/L、LD178 U/L(基準120~245)、ALP106 U/L(基準38~113)、尿素窒素12 mg/dL、クレアチニン0.6 mg/dL、Na142 mEq/L、K4.2 mEq/L、Cl102 mEq/L。CRP2.6 mg/dL。

急性虫垂炎の診断スコアを表1に、その診断スコア合計点別の尤度比を表2に示す。

表1 急性虫垂炎の診断スコア

項目	スコア
腹痛部位の移動	1
食欲不振	1
悪心、嘔吐	1
右下腹部の圧痛	2
反跳痛	1
発熱(体温 $\geq 37.3^{\circ}\text{C}$)	1
末梢血白血球数 $\geq 10,000$	2
好中球 $\geq 75\%$	1

表2 診断スコア合計点別の尤度比

スコア合計	陽性尤度比
0～4点	1.0
5～6点	1.6
7点以上	3.0

41 若年男性の急性の腹痛における急性虫垂炎の有病率が50%である場合、この患者における急性虫垂炎の確率はどれか。

- a 41%
- b 50%
- c 62%
- d 75%
- e 90%

42 指導医から抗菌薬を点滴投与するよう指示があり、研修医が末梢静脈路の確保を行ったが、患者に刺した留置針を誤って自分の指に刺してしまった。流水で十分に洗い流した。これまで当該患者のこの医療機関への受診歴はない。

この研修医に対して行う血液検査の項目として誤っているのはどれか。

- a HA 抗体
- b HBs 抗原
- c HBs 抗体
- d HCV 抗体
- e HIV 抗原・抗体

次の文を読み、43、44の問いに答えよ。

38歳の男性。食欲不振、腰痛および背部痛を主訴に来院した。

現病歴 : 半年前から胸やけと食欲不振、腰痛を自覚していた。2か月前から背部痛と呼吸困難が出現し、自宅近くの診療所を受診した。上部消化管内視鏡検査で胃体部に進行胃癌を認め、精査と治療のため入院となった。腰痛はみられるが、ADLは自立し歩行可能である。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 妻と小学生の娘2人と4人暮らし。職業は会社員、営業職で外回りの仕事が多い。喫煙は20歳から20本/日だが、2週間前から禁煙している。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識は清明。身長176 cm、体重63 kg。体温36.4℃。脈拍92/分、整。血圧120/64 mmHg。呼吸数18/分。SpO₂97%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

検査所見 : 血液所見：赤血球390万、Hb 9.1 g/dL、Ht 39%、白血球6,300、血小板26万。血液生化学所見：総蛋白5.0 g/dL、アルブミン3.0 g/dL、総ビリルビン0.8 mg/dL、AST 16 U/L、ALT 18 U/L、LD 184 U/L(基準120~245)、ALP 200 U/L(基準38~113)、クレアチニン1.0 mg/dL、Na 141 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 101 mEq/L、Ca 8.5 mg/dL。胸部エックス線写真で両肺に散在する腫瘍を認めた。腹部CT及び腰椎MRIで第1腰椎と第3腰椎に転移性骨腫瘍を認めた。肝転移は認めなかった。

患者には病状が詳しく伝えられ、今後抗癌化学療法、放射線治療が計画された。患者から、「会社に迷惑をかけるので、仕事をやめようか悩んでいる。治療費もたくさんかかるし、小学生の娘2人を今後どうやって養っていったらよいかを考えると心配でしょうがない」と相談があった。

43 この患者への対応で誤っているのはどれか。

- a 患者の病状理解を確認する。
- b 職場への伝え方を助言する。
- c 不安を軽減させるための支援を行う。
- d 退職して治療に専念するよう伝える。
- e 利用可能な支援制度の情報提供を行う。

44 患者は抗癌化学療法、腰椎の転移性骨腫瘍に対する放射線治療を受け、1か月後に自宅退院し、職場復帰した。今後、外来で抗癌化学療法を継続する予定である。

この患者が利用できる制度はどれか。

- a 介護保険
- b 障害年金
- c 高額療養費制度
- d 自立支援医療制度
- e 指定難病医療費助成制度

次の文を読み、45、46の問いに答えよ。

59歳の男性。倦怠感、悪心、嘔吐および発熱を主訴に来院した。

現病歴 : 昨日から倦怠感を自覚していたが、本日、悪心、嘔吐および悪寒戦慄を伴う発熱が出現し、体動困難となったため救急外来を受診した。

既往歴 : 糖尿病でSGLT2阻害薬を内服している。高血圧と脂質異常症で食事療法を行っている。

生活歴 : 妻と2人暮らし。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 父が糖尿病。母が大腸癌。

現症 : 意識は清明。身長165 cm、体重70 kg。体温38.5℃。脈拍92/分、整。血圧120/86 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂98%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部はやや膨満しており腸蠕動音は低下しているが、圧痛や腫瘍は認めない。肝・脾を触知しない。肋骨脊柱角叩打痛は両側とも認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(一)、糖2+、潜血(一)、①沈渣に白血球を認めない。
血液所見：赤血球522万、Hb16.2 g/dL、Ht47%、白血球19,600(桿状核好中球3%、分葉核好中球79%、単球6%、リンパ球12%)、血小板17万、PT-INR1.09(基準0.9~1.1)。血液生化学所見：総蛋白6.9 g/dL、アルブミン4.1 g/dL、②総ビリルビン1.8 mg/dL、直接ビリルビン1.0 mg/dL、AST23 U/L、ALT33 U/L、LD178 U/L(基準120~245)、ALP103 U/L(基準38~113)、 γ -GT85 U/L(基準8~50)、アミラーゼ45 U/L(基準37~160)、CK144 U/L(基準30~140)、尿素窒素20 mg/dL、クレアチニン0.87 mg/dL、③eGFR70.1 mL/分/1.73 m²、④尿酸6.0 mg/dL、血糖189 mg/dL、HbA1c7.5%(基準4.6~6.2)、⑤Na136 mEq/L、K4.4 mEq/L、Cl98 mEq/L。CRP11.4 mg/dL。

45 症状の原因を検索するために画像検査が必要と考えた。

下線部のうち、造影 CT 撮影実施の可否を判断する上で最も重要な情報はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

46 救急外来で撮影した腹部造影 CT(別冊No. 5)を別に示す。患者は入院し、抗菌薬治療が開始された。入院翌日、救急外来で採取した血液培養2セットから Gram 陰性桿菌が検出された。

追加すべき治療として適切なのはどれか。

- a 肝庇護薬の全身投与
- b 肝内病変のラジオ波焼灼
- c 肝内病変の穿刺ドレナージ
- d 副腎皮質ステロイドの全身投与
- e 肝内病変の内視鏡的経鼻胆管ドレナージ

別 冊 No. 5

次の文を読み、47、48の問いに答えよ。

39歳の女性。動悸と息切れを主訴に来院した。

現病歴 : 半年前から月経量が増え、3か月前から階段昇降時に動悸と息切れを自覚するようになったため受診した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 会社員。一人暮らし。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 特記すべきことはない。

月経歴 : 初経13歳。周期28日型、持続10日間。

現症 : 意識は清明。身長154 cm、体重57 kg。体温36.4℃。脈拍96/分、整。血圧126/80 mmHg。呼吸数18/分。SpO₂98%(room air)。眼瞼結膜は貧血様である。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。肝・脾を触知しない。下腹部は軽度膨隆している。内診で、径10 cmの腫瘤を触知する。神経診察で異常を認めない。

ある論文に掲載されている眼瞼結膜所見別の貧血患者数の表を示す。

		貧血あり(50名)	貧血なし(240名)
眼瞼結膜	貧血様	24名	50名
	正常	26名	190名

47 眼瞼結膜の身体所見から貧血を診断する場合、この患者の貧血診断における尤度比を求めよ。

- a 0.2
- b 0.7
- c 1.0
- d 2.3
- e 4.3

48 血液検査を行ったところ、以下の結果が得られた。

血液所見：赤血球 371 万、Hb 8.5 g/dL、Ht 29 %、白血球 4,100、血小板 29 万。

血液生化学所見：総蛋白 6.9 g/dL、アルブミン 4.5 g/dL、総ビリルビン 0.9 mg/dL、AST 32 U/L、ALT 32 U/L、LD 173 U/L(基準 120~245)、ALP 106 U/L(基準 38~113)、尿素窒素 11 mg/dL、クレアチニン 0.8 mg/dL、血糖 93 mg/dL、総コレステロール 189 mg/dL、Na 139 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 102 mEq/L。

CRP 0.7 mg/dL。

この患者で認めるのはどれか。

- a 血清鉄高値
- b 網赤血球数低値
- c 血清フェリチン低値
- d 血清不飽和鉄結合能低値
- e トランスフェリン飽和度高値

次の文を読み、49、50の問いに答えよ。

65歳の女性。呼吸困難を主訴に来院した。

現病歴 : 1時間前、自転車で走行中に転倒した。左胸部を強打し、直後から呼吸困難、胸痛および血痰が出現した。当初、痰にわずかに血が混じる程度であったが、徐々に出血の量と回数が増加し呼吸困難も増悪したため、救急外来を受診した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 母が高血圧症。

現症 : 意識は清明。身長159 cm、体重70 kg。体温37.2℃。脈拍104/分、整。血圧96/60 mmHg。呼吸数22/分。SpO₂94%(room air)。皮膚は左側胸部に10×5 cmの出血斑を認める。眼瞼結膜は貧血様である。左側胸部に圧痛を認める。心音に異常を認めない。呼吸音は左上前胸部で減弱している。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢に異常を認めない。胸部エックス線写真で左肺の虚脱と左胸腔に胸水の貯留を認めた。

49 次に行う検査として正しいのはどれか。

- a 胸部CT
- b 胸部MRI
- c FDG-PET
- d 肺動脈造影検査
- e 肺血流シンチグラフィ

50 血液検査を行ったところ、以下の結果が得られた。

血液所見：赤血球 321 万、Hb 9.0 g/dL、Ht 28 %、白血球 10,300、血小板 12 万、Dダイマー $0.2\mu\text{g/mL}$ (基準 1.0 以下)。血液生化学所見：総蛋白 5.7 g/dL、アルブミン 2.9 g/dL、総ビリルビン 0.6 mg/dL、直接ビリルビン 0.2 mg/dL、AST 20 U/L、ALT 25 U/L、LD 185 U/L(基準 120~245)、ALP 110 U/L(基準 38~113)、尿素窒素 11 mg/dL、クレアチニン 0.4 mg/dL、尿酸 6.5 mg/dL、血糖 85 mg/dL、HbA1c 5.0%(基準 4.6~6.2)、総コレステロール 210 mg/dL、トリグリセリド 110 mg/dL、Na 140 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 101 mEq/L。

治療のためベット上安静が必要であると判断された。

肺塞栓症予防のため有用なのはどれか。

- a 酸素投与
- b 抗菌薬投与
- c 血栓溶解薬投与
- d 気管支拡張薬吸入
- e 弾性ストッキング着用

